

イスラーム社会論

担当教員： 日下部 達哉

履修年次・区分： 3・4年（専門－展開－共生・開発）

授業のテーマ： ムスリムの暮らしや価値観について、東南アジア、南アジア、アラブなど世界中の事例を学び、これから訪れる宗教の国際化・グローバル化への対応力について考察する。なお、担当者はバンラデシュを専門としているため、南アジアのイスラームについて中心的に紹介する。

この日の授業内容： バングラデシュにおけるイスラームの事例研究



イスラームの社会では、男性の社会と女性の社会は区別されています。例えば、バスの中では女性用のシートがあって男女で席が分かっていたり、バザールで女性用の服を売るのは男性でも着付けの仕方は全く知らなかったり。しかし、イスラームでも今後女性の社会進出が進んでくると、社会のあり方が変化してくるのかもしれない。

「バングラデシュでは死の境は日本よりもはっきりしています。」と日下部先生。「運転が荒くてトラックが人を撥ねる。病院が近くにないので、はねられたおじいちゃんは亡くなりました。普段は洗面器いっぱいぐらいのご飯とスパイスの効いたカレーを食べていますが、病気になると食べられるものがない、死にます。」バングラデシュ人の寿命は日本人より10年以上短いそうです。

(2017年5月取材)